

筑波大学特別支援教育連携推進グループ

令和7年度現職教員研修の様子

(指導力向上研修・1か月)

新緑の季節に、新しい現職教員研修生（指導力向上研修・1か月）をお迎えしました。今年度2人目となる研修生は、青森県から派遣いただいた三上真奈美先生（青森県立青森第一養護学校）です。5月7日（水）から6月6日（金）の1か月間、茗荷谷の筑波大学東京キャンパスと、附属桐が丘特別支援学校で研修を受けられます。

三上先生の研究テーマは、「①形を捉えたり、書いたりすることが苦手な児童に対する支援の方法について ②自分の身体の理解と姿勢管理について」です。附属桐が丘特別支援学校での実践実習では、小学部の国語科の授業づくりについて取り組む予定です。

5月9日（金）には、研修の開講式を開催しました。三上先生は、「いただいた機会を大切に、学びを深めてまいります。」と研修に対する抱負を述べられました。1週目は、連携推進グループ員による講義や、実践実習を行う附属桐が丘特別支援学校の参観がありましたが、三上先生は丁寧にメモをとりながら、意欲的に研修に臨まれています。

総合演習では、研修テーマに関するプレゼンテーションを行いました。研修中は専門種の障害だけではなく、筑波大学附属特別支援学校を参観しながら、他障害種についても広く学ぶことができます。1か月間ですが、実り多い研修となりますように、連携推進グループでも実習校と連携を図りサポートしてまいります。



開講式で、抱負をお話される三上先生



ご勤務校のキャラクター「いっちゃん」と記念撮影



研修テーマの発表では活発な質疑がなされました



教育局の先生方、仲間の研修生、グループ員と一緒に

